建 政 第 2 8 3 号
平成20年10月22　日

国土交通省道路局長　様

水戸市長　加藤　浩一

今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

貴職におかれましては，日頃から本市行政にご助力をいただいておりますことに衷心より御礼申し上げます。

さて平成20年9月19日付国道企画第37号にて依頼のありました意見・提案について，別紙の通り回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

① 道路行政全般について改善すべき点，要望や提案など

茨城県水戸市

本市を取り巻く道路環境を見ると，国レベルの幹線道路については着々と整備が進められており，様々な地域との時間距離が短縮されてきたことで、市民生活においても経済活動の面においても大きな効果をもたらしていると実感している。

このような国レベルでの道路網の整備に併せ，地方においても都市の骨格となる道路網の構築に努めているが，未だ地方道の整備は十分とは言えないのが実状である。道路の整備をめぐる議論の中では，道路整備そのものの必要性が薄れているかのような論調も見受けられるが，道路は系統的に整備されてこそ本来の機能が発揮されることから，地域間を連携する道路や生活に密着した道路の整備の必要性は,依然として高いものとなっている。

しかしながら，現在の厳しい財政状況においては整備の速度に限界があるのも事実であることから，短期間で効果を発現させるべき道路と，長期間を要しても整備すべき道路を一層明確にするとともに，最大限に既存道路の再生・活用を図り，メリハリのある整備を進めていくことが肝要であると考えられる。

また，毛細血管の役割を果たすべき地方道においては，市民生活に直結した道路や，子どもたちの通学路等の整備が不十分なのが現状であり，維持管理費も不足していることから，今後の道路行政における重点項目として，地方の実状に即した財源の確保が強く望まれる。

特に，地方道路整備の財源において，国の補助金等は大きなウェイトを占めているが，補助メニューの多様化、細分化によって，事務処理が煩雑化している側面が見受けられる。整備の目的，水準により，複数の補助メニュー等が整備されることは必要であるが,事務の効率化とともに,市民にもわかりやすい行政運営を進めるためにも補助金等の類型化による簡素化が望まれる。

さらに，地域の個性ある都市基盤整備を進めるためには,地方の実状に沿った財源確保が必要であることから，現在のまちづくり交付金事業など，地方の裁量が反映できる制度の拡大・強化が望まれる。

最終的には，権限移譲と併せて財源の移譲を進め，地方の判断や裁量幅を大きくすることで地域の実状等に応じた，個性のあるまちづくりに資する道路整備の円滑な推進を目指すべきであると考える。

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

② —1　地域の現状と抱える課題

茨城県水戸市

○現状	○課題
水戸市の中心市街地は那珂川の低地と桜川の浸食谷に囲まれた狭長な上市台地に形成され，ここに主要な幹線道路が集中していることから，交通混雑が発生している。近年はバイパス等の整備が進められることで交通集中の解消が図られつつあるが，未だ幹線道路を相互に連携させる環状道路が不足している状況である。	中心市街地，特に水戸駅北口に集中する交通の分散を図ることが課題となっており，現在水戸市，ひたちなか市及び那珂市を結ぶ水戸・勝田環状道路の一部となる都市計画道路３・３・２号中大野中河内線の整備を進めている。平成19年度末現在の供用済延長は約6kmで全体の約37%となっており，引き続き早期整備を図ることが必要である。
高速自動車国道については，市内には常磐自動車道，北関東自動車道が通過しており，３か所のインターチェンジが立地しているとともに，新たにスマートインターチェンジの社会実験が行われるなど，広域交通体系へのアクセシビリティは高いものとなっている。 常磐自動車道の水戸北スマートインターチェンジは，平成18年９月に東京方面へのハーフインターチェンジとして社会実験を開始して以来，当初約800台／日だったものが，平成20年７月には約1700台／日に達するなど順調に推移しており，平成20年６月には高速バス路線が開設されるなど，地域の利便性向上に大きく寄与している。	常磐自動車道の水戸北スマートインターチェンジは，実験開始以来順調な推移を見ており，地域においても観光をはじめとした産業の振興市民生活の利便性向上に大きく寄与していることから，早期に恒久施設化することが課題となっている。 また，東京方面へのハーフインターとして実験を開始していることから，更なる利便性向上に向けてフルインター化も課題となっている。
また，行政区域面積約217k㎡に対し，市内の道路実延長2,373kmとなっており，このうち，約2,234kmを市道として管理しているが，改良率は３８%にとどまっている。	市道の改良率は38%にとどまっており，特に市民生活に密着した区画道路の早期整備が求められている中で，雨水排水対策等も併せて進める必要があることから，この財源確保が大きな課題である。 また，施設の老朽化等に伴い増加が予想される維持管理費に対応するとともに，改良再生，予防保全の視点に立った維持管理を進める上での財源確保も課題である。

今後の道路行政についての意見・提案　　様式③

②－２　地域の目指すべき将来像　　茨城県水戸市

水戸市は，県都として，地方中核都市圏のリーダーとしての役割を担っており，さらなる発展が期待されている。その期待される役割に応えるためにも，水戸市の現況や市民の意識，時代の課題等を踏まえながら，都市の魅力をさらに高めるとともに，求心力を再生し，２１世紀にふさわしい，市民の夢を育む活力のある元気な都市の構築を目指している。

このため，真に自立した都市に向けての権限の拡大と財政基盤の確立を図るとともに，将来にわたっての個性と魅力にあふれる都市の創造に向け，政令指定都市を展望した５０万都市構想の実現を将来ビジョンに掲げている。

その実現には，交通ネットワークや観光資源のネットワークの形成，強化をはじめ，地域の特性を生かした魅力ある拠点の再構築など，広域的な視点に立った取り組みが必要である。

道路については，産業をはじめとしたあらゆる活動を支え，車や人の移動，物流を円滑にする根幹的な都市施設であり，交通ネットワークを形成する上でもっとも重要なものとして位置づけられる。また，ライフラインの設置空間としての機能をはじめ，コミュニティの形成など，市民生活を支える様々な機能を有しており，重要な公共空間の役割を果たしている。

このため，一層の都市の発展，都市圏の発展に向け，周辺都市との機能連携を促進する広域環状道路の整備をはじめ，都市の骨格を形成する都市計画道路の整備，市民生活に密着した生活道路，通学路，交通安全施設等の整備を体系的に進めていくこととしている。

今後とも，都市交通の円滑化による都市の活性化をはじめ，高齢者，身体障害者等にやさしい歩行空間の創出などのバリアフリー環境の実現，良好なまちなみの形成に資する道路景観の形成など，時代の課題を踏まえた道路整備を進めながら，活力ある地方都市としての再生を目指すものである。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③ 道路施策の重点事項(代表事例，期待する効果や評価等)

茨城県水戸市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・都市交通の快適性，利便性の向上 ・地域活力の向上	・水戸・勝田都市計画道路３・３・２号中大野中河内線の整備	水戸市・ひたちなか市・那珂市を結ぶ水戸・勝田環状道路を形成する路線であり，茨城県及び水戸市で施行区間を定め，協調して整備中 水戸市中心市街地に収束する幹線道路の交通の集中を分散し交通の円滑化に資する。 また，水戸広域市町村圏及び水戸地方拠点都市地域の一体性の強化、地域内交流の促進に資する。	
・少子・高齢化に対応した子育て環境，バリアフリー社会の形成	・都市計画道路網の整備による系統的な歩行者空間の創出	都市計画道路網により，広幅員の歩道を整備することで，基幹的な歩道を系統的に創出し，あらゆる人が安全で快適に移動できる歩行者空間を創出する。	
・良好な生活空間・自然環境の形成	・生活道路の整備	・市民生活に密着した生活道路の整備により，安全で快適な居住環境の創出に資する。	
・環境型社会の形成	・交差点の改良等，短期間に実施可能な渋滞対策の実施	・原則として用地・補償等を伴わない範囲で実施する交差点改良により，交通渋滞の軽減を図ることで，移動時間の短縮と地球温暖化ガスの削減に資する。	